



2:22 イスラエルの皆さん、これらのことばを聞いてください。神はナザレ人イエスによって、あなたがたの間で力あるわざと不思議と行い、それによって、あなたがたにこの方を証しされました。それは、あなたがた自身がご承知のことです。

2:23 神が定めた計画と神の予知によって引き渡されたこのイエスを、あなたがたは律法を持たない人々の手によって十字架につけて殺したのです。

2:24 しかし神は、イエスを死の苦しみから解き放って、よみがえらせました。この方が死につながれていることなど、あり得なかったからです。

2:25 ダビデは、この方について次のように言っています。『私はいつも、主を前にしています。主が私の右におられるので、私は揺るがされることはありません。』

2:26 それゆえ、私の心は喜び、私の舌は喜びにあふれます。私の身も、望みの中に住みます。

2:27 あなたは、私のたましいをよみに捨て置かず、あなたにある敬虔な者に滅びをお見せにならないからです。

2:28 あなたは私に、いのちの道を知らせてください。あなたの御前で、私を喜びで満たしてくださいませ。』

2:29 兄弟たち。父祖ダビデについては、あなたがたに確信をもって言うことができます。彼は死んで葬られ、その墓は今日に至るまで私たちの間にあります。

2:30 彼は預言者でしたから、自分の子孫の一人を自分の王座に就かせると、神が誓われた

ことを知っていました。

2:31 それで、後のことを予見し、キリストの復活について、『彼はよみに捨て置かれず、そのからだは朽ちて滅びることがない』と語ったのです。

2:32 このイエスを、神はよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。

2:33 ですから、神の右に上げられたイエスが、約束された聖霊を御父から受けて、今あなたがたが目にし、耳にしている聖霊を注いでくださったのです。

2:34 ダビデが天に上ったものではありません。彼自身こう言っています。『主は、私の主に言われた。あなたは、わたしの右の座に着いていなさい。』

2:35 わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで。』

2:36 ですから、イスラエルの全家は、このことをはっきりと知らなければなりません。神が今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。』

群れに聖霊が下り、それによって使命が果たされるようにと人々が変わりました。そして初めに行われたことが伝道です。すなわち人々を救いに導くという尊い行為です。人間が生まれてすぐに呼吸をして生きるように、教会は生まれてすぐに伝道し、生きるものとなるのです。

当然、この伝道は聖霊の知恵によってなされたものですから、大いに学ぶべきところがあります。第一に、人々が知っていることから始めています。「あなた自身がご承知のこと」から始めるのです。そうでないなら終始平行線に終わるでしょう。

第二に、「あなたがたは…殺しました」と、相手の実際に関わる問題点を、しっかりと話題にします。一般論や概念だけで終わっては、相手の存在に関わることがで

きません。

第三に、復活の力という、神の全能を示します。神の存在を明らかにしなければ、相手に永遠の真理が伝わってきません。

第四に、相手がすでに受け入れている真理からも説明します。この場合は旧約聖書ですが、倫理や自然法則の場合もあるでしょう。

第五に、同じく聖書の引用ですが、何と言っても聖書の根拠です。聖書は神のことばですから、何よりも聖書に力があるのです。人を変える力は神のことばによります。

そして最後に大切なのは、「あなた（がた）は」と、その人自身のこととして語るということです。伝道は、客観的な事実や、教えを伝えるだけでなく、「あなたは」招かれています。「あなたは」救われますと、本人に迫ることです。

そしてそれらすべてが聖霊の愛と力で行われることです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

